

偽痛風性膝関節炎

ピロリン酸カルシウムの結晶により急性関節炎を生じる病気です。痛風の発作様と同様な関節炎なため、偽痛風と呼ばれます。高齢の女性の膝に多く、ときに、手関節や足関節などにも生じます。誘因なく急に膝関節が腫れて激痛を生じます。X線検査では、膝半月板の石灰化像を認めることが多いです。関節液を排液すると黄白色に混濁しており、関節液の顕微鏡検査でピロリン酸カルシウムの結晶があれば確定されます。化膿性関節炎との鑑別をする必要があります。関節液の結晶の有無や培養検査での細菌の有無や発熱などの症状や血液検査などで鑑別します。治療は貯まった関節液を排出して、関節内洗浄（生理食塩水にて）したり、消炎鎮痛剤の内服、ステロイドの関節注入が著効します。